

はじめに

岡山県では、がん（悪性新生物）は長年にわたり死亡原因の第1位となっており、平成25年においても全死亡者21,199人の3割弱にあたる5,560人ががんで亡くなりました。がんは代表的な生活習慣病であることから、その傾向を継続的に把握し、がん医療の向上に役立てるとともに生活上効果的な予防法を探ることは、県民の生命や健康的な生活を維持する上で、非常に重要です。

このため本県では、がんの罹患や受療、生存率に関する動向等の把握と解析評価を行い、がん対策の推進に資することを目的に、平成4年に「岡山県がん登録事業」を開始しました。現在は、県がん診療連携拠点病院である岡山大学病院に委託しており、関係機関の協力を得ながら、精度の高いがん登録を実施しています。そして、がん登録から得られた情報を毎年報告書にまとめ、公表するとともに、岡山県におけるがんの現状をより県民に分かりやすい形で提供するように努めています。

この報告書は、岡山県がん登録事業により得られた、平成23（2011）年1月から12月までの罹患状況などについて集計と分析を行ったものです。また、9部位のがんについて、登録罹患者（平成20年1月から12月までにがんと診断された者）の「5年相対生存率」のデータも掲載しています。本書が、がん予防、医療活動の評価や疫学研究など、関係各方面の方々によって幅広く活用され、がん対策推進の一助となれば幸いです。

がん登録は、平成28年から「がん登録等の推進に関する法律」の施行に基づき全国がん登録が実施され、新たなステージを迎えます。これにより、これまで収集が難しかった、県境を越えてがんの受療をされる患者に関するがん情報の収集体制が整うため、より実態に近いがん統計が得られることが期待されます。また、がん登録が法律上明確に位置付けられ、国や全国の地方公共団体、関係医療機関等が一丸となってこれを推進する体制が整えられました。本県においても、全国がん登録の円滑な実施に向け、必要な準備を進めてまいります。

最後に、本報告書の取りまとめに当たり、多大な御協力をいただきました岡山大学病院をはじめ、各医療機関、医師会ならびに関係各位に厚く御礼申し上げますとともに、継続的なデータの蓄積によって、本事業がさらに充実したものとなりますよう、一層の御理解と御協力をお願いいたします。

平成27年3月

岡山県保健福祉部長 伯野春彦